

赤江小学校だより



ちまちだ

赤江小学校は、開校 150 年
(明治 6 年 5 月 23 日開校)

3月号 令和5年3月6日

ひとみ輝き 笑顔と笑い声がこだまする赤江小学校

すすんで
あいさつする子
になろう

あきらめずに
がんばってみる子
になろう

自分もあいても
大切にする子
になろう

すすんで **あ** いさつする子
あきらめずに **か** んばる子
 **え** がおで
安心 学校生活が送れるように
自分も相手も大切にする子

3月になりました。久しぶりに雪が多く降ったこの冬。2学期末と1月下旬の2回も休校措置をとるほどでした。今では日が長くなり陽射しも明るく春の訪れを感じます。

6年生は、いよいよ卒業が近づいてきました。小学校のまとめを着々と進めているところです。3月17日に行う卒業式に向けての学習にも取り組んでいます。(式には、在校生を代表して5年生が参加し、他の学年は休校となります。)

新型コロナウイルス感染症やインフルエンザに対しては、引き続き「三密を避ける」等の感染予防対策を行ってまいります。お子様の健康観察も引き続きしっかり行っていきます。体調がよくない場合には連絡させていただくことがあります。その際は、お迎えをお願いします。ご家庭でも、倦怠感やのどの違和感、頭痛の症状が見られるなど、普段と体調が異なる場合には、早めに自宅で休養してください。ご協力をお願いいたします。

ホームページで、「学習活動の様子」や「学校だより」をカラーで紹介しています 

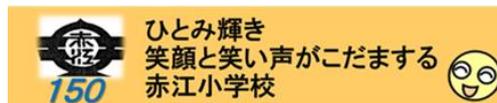
Pepper (ペッパー) くと勉強したよ (1, 2年生)



1年生と2年生が、学習で使用している Chromebook を使ってプログラミングし、ロボットの pepper (ペッパー) を動かしてみる学習を行いました。子どもたちは興味津々。講師の先生の話聞き、意欲満々に Chromebook に向かいプログラミングしていました。プログラムを pepper に送信すると pepper が動きます。子どもたちは、プログラミングした通りに動くのを見て、とても嬉しそうでした。

開校 150 年記念コラム（第9回）

今回は、夏に発行された「健康あかえ7月号（No67）」に、小学校時代の思い出にふれた文章を寄稿された金藤健太郎さん（昭和62年度卒）に赤江小の思い出をお聞きしました。



「赤江小学校の思い出」金藤健太郎さん（昭和62年度卒）

赤江小学校の一番の思い出というと、なんといっても児童交流です。大阪に行き、初めて会う白鳥小の友だちの家庭にいきなり宿泊するという、今ではとても勇気がいる行事。おおらかな時代だったのかもしれない。

交流相手の白鳥小の友だちは、当時安来にはあまりなかった団地に住んでいて、とても新鮮でした。初めのうちは緊張していましたが、気がつけば仲良く遊んでいたことを覚えています。

私たちが小学生だった頃は、前の体育館を使いながら今の体育館の工事が行われていました。前の体育館のトイレは古く汲み取り式でちょっと怖かったです。前の体育館には長い渡り廊下でつながっていました。雪が積もったときは、上靴がぬれないように気をつけて歩かなければなりません。休憩時間はプレイルームで遊んでいました。キャプテン翼がはやっていた頃に「スライディングごっこ」という遊びをしていてよく先生に注意されました。勉強で覚えているのは田植えや稲刈りです。かまで刈り取って、千歯こきで脱穀したことは、今思うとはなかなかできない貴重な体験だったと思います。

修学旅行でナタリーに行って遊んだり、卒業記念製作のパネル絵を作ったりしたことなど、思い出します。懐かしい小学校の思い出です。

学校保健委員会（3月2日）

開校150年を迎えた節目に、これからの時代に活躍する赤江の子どもたちに生涯を通して健康で安全な生活を送る「生きる力」を育むため、学校、保護者や学校医、地域で一体となって健康教育に取り組むことをめざして学校保健委員会を立ち上げました。

学校保健委員会のメンバーは、以下の通りです。

学校医	金藤 先生	地域の有識者	桑原 赤江交流センター長
	麦谷 先生		永見 親子保健部会長（ふたばこども園長）
学校歯科医	加藤 先生	学校	勝部 安来学園副園長
学校薬剤師	嘉儀 薬剤師		難波 校長
PTA	二岡 会長（委員長）		福間 教頭
	秋間 副会長		仮屋 保健主事
	大櫃 副会長	板倉 養護教諭	
	平野 保健部長		（児童の保健委員会）

学校保健委員会では、赤江小児童の健康の状況や学校の取組などについて説明し、委員の皆様からご意見やご助言をいただきました。

島根県教育委員会では、子どもの健康課題として「心の健康」「望ましい生活習慣」「食に関する指導」「歯と口の健康づくり」「性に関する指導」「喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育」をあげています。

赤江小では、今年の健診で「虫歯があって治療を必要とする子ども」はわずか7人で、「むし歯も治療済みの歯もない子ども」が、255名中211人でした。「歯と口の健康づくり」の家庭や学校での取組は効果的であると感じています。一方でメディアとの付き合い方に関しては、「長時間利用してしまう」「視力が低下している」という状況が多く見られ、課題であると感じています。

赤江小では、講師を招いてのメディアに関する学習や、家庭と協力して行う「スイッチビンゴ」や「メディアコントロールウィーク」等々メディアとの付き合い方に関する様々な取組をしています。

学校保健委員会では、「講師を招いての学習は良いものなので、保護者も参加できるとよいと思う」「子どもの家庭でのメディア利用については、やはり保護者の役割が大きいと思う」「スイッチビンゴなどの取組は、親子でやってみようという意識が高まるのでありがたい」「世間的にはスマホで子守りをするなどの様子も見られるが、メディアを介さず、人と人がふれあう時間や体験が大切だと思う」「今日の資料は、赤江小の健康の様子がよくわかるのでPTA総会などでも紹介すると良いと思う」「来年度は、学校保健委員会の目標を立てて取り組むと、目指す方向がわかりやすくなり、効果的なのではないか」などのご意見やご助言をいただきました。

早速、来年度は、「メディアと上手につきあう子どもを育てる～おうちでのふれあいの時間をふやしましょう～（仮）」という目標を掲げて取り組んでいくこととなりました。学校保健委員会の様子は保健だよりでもお伝えしますのでご覧ください。



写真(右)は、松江市のぽよぽよクリニックの田草先生を招いて行ったメディア教育の様子です。田草先生には、「メディアが心身に与える影響」について専門的な立場からわかりやすくお話ししていただき

ました。授業の最後に、田草先生からは「自分が納得して決めたメディアのマイルールをおうちの人と共有すること」という宿題が出ました。

三中校区の小中学校では、今年度も秋に「メディアコントロールウィーク」に取り組みました。ICT機器は、上手に使えばとても便利なものですし、これからの時代、ICT機器の活用は不可欠です。大切なのは、子どもたち自身が、何が大切か考え、ルールを決めて、自分たちでルールを守ろうとすることだと考えています。引き続きご協力ください。よろしくお願いいたします。

バースデープロジェクト（5年）

学校保健委員会の委員の皆様には、助産師さんを招いて行った5年生の性に関する学習の様子を参観していただきました。「昔はこのような授業はありませんでした。子どもたちにとってとても良い授業だと思いました。」「参観させていただいて良かったです。とても勉強になりました。」「親子で学ぶとよいと思いました。」などの感想をいただきました。



お知らせ



丸和運輸様（毎年、子どもたちのために「朝日新聞ニュース」を寄贈していただいております）から横断旗を約100本も寄贈していただきました。今後、必要などところにお渡しする予定です。（写真左）

安来市農政会議様からは、子どもたちの栽培活動にと助成をいただきました。大切にに使わせていただきます。ありがとうございました。

トイレの改修工事が始まり、中庭に仮設トイレも設置されました。工期は、4月上旬までの予定です。工事中は、子どもたちのトイレ使用が少々不便になります。ご了承ください。

